

たわわ

TAWAWA

地域で生きる障害者を支える会通信

発行 2008年1月30日

84号

NPO法人「地域で生きる障害者を支える会」

住所：横浜市港北区下田町6-31-8

活動ホーム「しもだ」内

TEL 045-562-3600

FAX 045-562-5991

努力で埋められない格差を

埋めるのが国の仕事では？



冬です。樹々も落とす葉はすっかり落とし、朝の落ち葉掃きもなくなりました。

私たち「支える会」の会員は、南の九州から北海道まで、長い日本の各地におられ、今のように氷点下30度を記録したというニュースに接すると、皆さんのところはどうかと、思いを馳せています。

横浜でも、それなりに厳しい日が続き、グループホームやデイサービスの活動ホームでは、職員たちが加湿器をフル回転させて湿度と体温調節に気をくばり、風邪をひかせないように神経をとがらせています。高齢者も同じだと思いますが、重度の障害者にとっては風邪は重篤な状況につながる恐ろしい病気だからです。ただ、外気に触れる事も大切なので、人手があつて風の穏やかな晴天時には、散歩にもでます。冷くてもやっぱりそとは気持ちがいい。冬の陽だまりを楽しむゆとりもほしいですね。

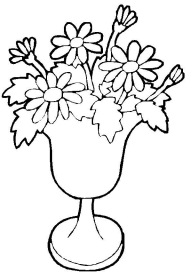
* * *

昨今の原油の値上がりは、個人の努力の範囲を超え、寒冷地の人や、私たちのように毎日車の移送に頼らざるを得ない人には、大変な打撃です。好んでその状況を選らんだわけでもないのですから、その差を少しでも緩和させようとするのが国の役割なのではないでしょうか。

昨年来のグループホーム運営をめぐる一連の経営改善の中に、夜間の部分について、宿泊手当てではなく、きちんと時間給を支払うために、ホームヘルパーの制度を生かす道をえらびました。それには これまでの居宅介護から重度訪問介護の制度への移行が必要でした。役所でも親身に相談に乗ってくれ、派遣の事業所でもそれなりに理解を示してくれましたが、この重度訪問介護は24時間使える代わりに、国から事業者を支払われる単価が身体介護の二分の一という安さです。このため、多くの事業所ではあまり引き受けたりません。

私たちも、事業所にあまり負担を掛けずに引き受けもらえるよう、またヘルパーの不利益を最小限に食い止めるよう、いろいろ工夫し、2転3転した上、現在ようやく落ち着こうとしています。

元気に暮らせる人と、何事にも人の助けが必要な人との差を、制度によって救うというのなら、重度障害者への配慮がもっとほしいところです。苦勞を超えて生き抜く事で社会を変えていく彼らの生活を守る事は、日本の将来にとってとても必要な事だと解ってほしいものです。



「母のアルバム」

大石富美子

夏に母が亡くなりました。81歳でした。そうなることはわかっていましたが、母が体調をくずすまで、実家に帰ることも少なくなっていた私には辛い思いが残りました。そんな時、母が大切にしていた小さなアルバムがたくさん入った箱を出しながら、姉が「これを見たら」と言いました。

そのアルバムを開くと、昔はやった日付の入るオート・カメラで母が写したふたりの姪の写真が並んでいました。姪たちが幼い頃、毎日、姉が仕事を終えて帰ってくるまで、ふたりは母と過ごしていました。庭の花が咲いたり、雪が降ったりすると、母はふたりをモデルによく写真を撮っていました。アルバムの中の写真からは、幼かった姪たちの7、8年間の日々が、いきいきとよみがえって来ます。年上の姪は姉にそっくりで、母は姪たちに幼い頃の姉と私を重ね合わせていたようです。姉が整理した母の写った写真は多くはないものの、家族や友人と行った旅先での笑顔ばかりでした。静かな茶の間で姉とふたりで母のアルバムを見ていると、気持ちが少し楽になりました。

年が明け、心新たに今年の目標を考えていたとき、ふと、母のアルバムのことが思い出されました。日々の生活のなかで楽しいことや感動をたくさん経験して写真に残し、落ち込んだらそれを見て元気になり、1日を大切に生きていく、愛用のデジタル・カメラを持ち歩いて、今年はそのような1年にしたいと思っています。

(賛助会員)

活動ホーム「しもだ」で 恒例のクリスマス会

☆ たかがクリスマス会 されどクリスマス会！この数時間にかかる皆の情熱は..... ☆

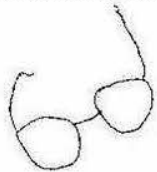
自分をアピールする事の苦手な人、全身これ広告塔のような人。
活動ホームしもだとランチのコスモス作業所に通う仲間たち



計37人の大活躍するクリスマス会が、作年も開かれました。職員たちもその“英知と情熱”を総動員



して、この数分間の出番にそなえます。よつばの部屋の皆は人魚姫と海の仲間たちの凝った仮装をし、これを見逃すまいとお母さんたちも息せき切ってかけつけました。



めがねの声

■ 障害者でよかった と思った事ありますか？と...

今年は明けてから 少し寒いですね。皆さんは お身体はいかがですか。

12月に人権週間で 港北区社会福祉協議会の職員と、母とで大豆戸小学校にお話しに行きました。私が トーキングエイドという器械で 簡単に今の活動の事をはなして、母は スライドで写真を見せながら 活動ホームや よつばホームの人たちや 大豆戸小学校の近くにある いくつかの作業所に通う障害者たちのようすを お話しました。

小さな一年生から 6年生まで500人以上の子供たちが、みんな行儀よく聴いてくださって 質問のときは 元気よく たくさん手を上げて、時間がたりないくらいでした。

お風呂の事や トイレの事 電車に乗るときの事「いじめられた事がありますか」など たくさん質問がありました。

なかでも「大原さんは 障害者でよかった と思った事がありますか？」と聞かれたとき 私はびっくりしました。今まで 初めて聞いた質問でした。私の事なので私に聞こうと母が言いました。私は 言葉が不自由ですが『はい』と答えました。障害者としていろいろ体験できるし いろいろな人に知り合い 皆たちとふれあいがある と答えました。

* * *

今度の学校訪問で驚いた事が3つありました。

1つは 障害者用のトイレがありました。2つは 皆座って一生懸命に聞いてくれました。

3つ目は前に書いた質問の事です。それぞれの 家のお母さんたちや 学校の先生が 子供たちをよく見て 育てているのだなと思いました。

12月は人権週間があったり 障害者の日があったりで 学校も私たちも忙しいけれど 皆の注意が 自分たち障害者に向けられる時です。

このお話をして 私は 自分の事ですが 『私は 24時間 ひとりでは飲んだり食べたりする事もできないし お風呂も寝る事もできないのだ...』という事をあらためて思いました。

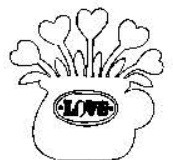
そして これからずっと 皆にお手伝いしてもらいながら 器械も使って ちゃんと生活をしていかなければならない ということを強く思いました。

大原 友子

ご入会 ご継続 ありがとうございます [敬称略]

《会員》 鈴木仁市

《賛助会員》 渡辺隆利 渡辺アツ子 渡辺洋一 寺沢 慎 永澤利子



花陽の会様、柳下喜久様よりご寄付をいただきました。心よりお礼申し上げます。

